

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 平成27年度第1回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の平成27年度第1回推進会議を平成27年7月28日（火）に開催しました。

第1回推進会議には、6名の委員のうち3名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

＜委員＞

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
会長）

北裏 和樹（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）

※辻委員、松本委員、堀越委員は
ご欠席

＜ファシリテーター＞

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）



＜推進会議の進行概要＞

会議の進行概要は以下のとおり

開会 10:00
スポーツ推進局次長あいさつ

事務局からの報告

- ・夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクトについて
- ・平成26年度推進会議の概要について
- ・平成26年度プロジェクトの成果と検証について

プロジェクト推進についての意見交換

- ・国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国障害者スポーツ大会の周知
- ・県民の週1回の運動・スポーツに向けて
- ・サミットを契機としたスポーツ振興

閉会 11:30

（事務局からの報告）

冒頭、高間スポーツ推進局次長から委員の皆さんに本日の会議の開催趣旨について説明しました。

また、平成26年度推進会議の概要、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」を構成する2つの実践取組における平成26年度の実践状況及び本年度の実践について、事務局から説明しました。

※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

（プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、杉田教授の進行により、プロジェクトの推進に向けて、次の3つのテーマに基づき意見交換を行いました。

- 国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国障害者スポーツ大会の周知
- 県民の週1回の運動・スポーツに向けて
- サミットを契機としたスポーツ振興

※委員からの主な意見

○国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国障害者スポーツ大会の周知

- 競技者だけでなく、多くの人々が国体に関わってもらえる仕組みをつくり、国体を自分のこととして捉えてもらえるように周知していくと良い。
- 障がい者スポーツ自体あまり知られていない現状があるため、全国レベルのものが三重で見られるということを知ってもらう必要がある。
- 国体等の大会を開催すると、家族や関係者の多くが宿泊するため、大きな経済効果が期待されるなど、国体開催の効果を噛み砕いて周知していくと良い。

○県民の週1回の運動・スポーツに向けて

- 「スポーツ」というと、苦手な人がいるので、「健康のために体を動かそう」というと、ハードルが低くなり取り組みやすくなる。
- 企業では、昼休憩にラジオ体操等の軽い運動をしているところがあり、そういう企業を増やしていけば、運動実施率が伸びるのではないか。
- 数値が伸びない原因として、運動の機会がなく、忙しい等のライフスタイルが影響しているため、それぞれの状況に応じた運動の機会を創出していくことが必要である。

○サミットを契機としたスポーツ振興

- サミットのスタッフを対象にしたアクティビティやプログラムを提供し、その中にス

ポーツを入れ込んでどうか。

- 志摩市はスポーツ施設が充実しているため、そういった施設の活用をしていくと良い。
- 各市町では、配偶者プログラムの提案に取り組んでいるところがあるが、スポーツも取り入れていくと良い。
- 熊野市では、スタンドアップパドルという新しいマリンスポーツに取り組んでいる。マリンスポーツがさかんな志摩市とも連携をしたいと考えており、ゆくゆくは国際大会を開催したいと考えている。

など



次回の開催予定

12月頃に第2回推進会議を開催する予定です。